『居場所の重要性』 ~ "心の診療室" ~

2023年11月27日恵泉女学園(世田谷区の経堂)の理事会に赴いた。 2021年7月1日、新渡戸稲造(1862-1933)から学んだ河井道(1877-1953)が、初代学園長である恵泉女学園の9代目理事長を拝命することになった。 河井道は自著『わたしのランターン』の終わりに『時がくると、それは別の手へとひき継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう。』と記述している。 理事会終了後、3人の同窓生の理事と経堂駅に向かった。『恵泉の未来を語る会』が立ち上がる予感がする。

女子教育に 大いなる理解を示した新渡戸稲造(東京女子大学 初代学長)が、河井道(恵泉女学園 創立者)、津田梅子(1864—1929;女子英學塾 創立者)、安井てつ(1870-1945;東京女子大学 第2代学長)を援護した三人に共通するのは『種を蒔く人になりなさい』の実践であろう。

11月28日は、『福島県立医科大学附属病院がん相談支援センター』で2009年スタートした『吉田富三(1903-1973)記念福島がん哲学外来』に参上する。【福島県出身の世界的病理学者吉田富三博士を記念して、吉田博士の孫弟子樋野興夫先生と【福島がん哲学外来】を開設いたしました。 患者さんの思いや日常生活の悩みを受け止め、じっくりと対話する"心の診療室"です。 がんにまつわる悩み・不安を持って生きる患者さんとそのご家族の受診をお勧めします。】と謳われている。

筆者は、医師になり、癌研究会癌研究所の病理部に入った。 病理学者であり、当時の癌研究所所長であった菅野晴夫先生(1925-2016)の恩師である日本国の誇る病理学者:吉田富三との出会いに繋がった。 菅野晴夫先生とは、2003年『日本病理学会と日本癌学会』で『吉田富三生誕100周年記念事業』を行う機会が与えられた。 そして、必然的に『がん哲学』の提唱へと導かれた。 さらに、2008年『陣営の外=がん哲学外来』へと展開した。 2013年には『吉田富三生誕110周年記念』を企画され、新聞記事が大きく掲載された(画像)。 2019年『吉田富三記念福島県立医科大学がん哲学外来10周年記念講演会』も企画された。 『居場所の重要性』を痛感する日々である。

浅川町出身、がん研究の先駆者・吉田宮三博士の生誕110周年を記念し たシンポジウムが9月8日、蓼山市の市民交流プラザで聞かれた。約100 名が参加し、講演や総合討論を通じて博士の人柄や業績を振り返った。

> 当以不確実 常以不安を報 再発する可能性がある。 す。悪い部分を除去し、

不安を除える人が集まるブ

たっただよもやま話を

いる人や「自殺したい」と

ä

今の自然物業力を人は物?

だったかと思います。 在別番が20歳回の記載機 さんは体験者として

摩事 用づけ

石間 本日はあっかんつ

いました。心の基準体力、

それは「対語」です。

Deed H

実験になり



かんから始まる 体験者のメッセージ 心の健康で生きる勇気を



晴夫 普野

受け継がれてい 種的に発展させ、「個別化 功績はがん研究分野を無

医療」など現代の医療にも

有大学に総任されたのは昭

時、全国にお校しかなかつ

和初年と月のことです。や

れならの世間 お着下的名

下川 功 さん

古田内閣の発見は昭和





ど、近しく知る これで被さな小 に) 立ち向かう

組らしい研究につながっ

校別) を確実にこむして

は考えず、自分の仕事

下川 長崎も戦後10年での

14. 生態会で充のことは考 される心臓いますか? 市田先生ならじんな難苦を

養野 先生は回の前のこと

下川 芸術時代 こんなぶ 機数 口の名の英格を示し)…」におります。 明報

に身を最ねなさい」。そん た素様のことを言ったそう DAMOSES AND

ş 「がん独裁を受けて

開発を、この着むかから様

菓子 84

200日

菓子なる 機構しないようにすること だから今を振り返り、機で 生きることは大変なこと 石田 がん他者やそのご来

一今を精いっぱい生きる、そして明日へ 行われ、あらためて古団様子の倫里を振り取った。 プログラムの最後には、全議開着による総合財職が

機野 親夫!

岸下 本川

石田 旅船するつの時代



指す方法の研究。この三つ 物す方法の研究。この三つ なり、場内最高の学士賞で 第一の大きな仕事は、 の研究に先生は生涯を続け のかという税がんの研究! ある説職賞を受賞されま 「人工肝臓がんの生成」。 一つ目は、かんが体の中で 人とそのお仕事」 先生のお仕事を大別す

がん研究に残した不滅の偉業 様性」や「毎性化」 な「古田内屋」の発 の発見、日本で初 イトロミンを作ったのも先 めての柄がん業ナ 返すことを明らか 限なく増殖を練り

吉田富三先生の 業績と人柄を語る

長崎時代のお仕事」

流の研究者の見識の高さ 先生は、「新しきこの株は 中書たるとを確認して確認が 特に解散が した細胞を他のラットに移 水にできたミルク状の白癬

実は根據的に進むことを予 に分けてあげること 一流の研究者の見識の高い にとなく、いろんな研究者 わらず、自分の業績にする 作的な発見の瞬間にもかか この発見によりがん研

古田富三[よしだとみぞう]。



先報者であり生した。主 使った機能の退却来でもあ 人物で、古田内側の発

ジナルで施行を終れ」とい

古田光をは「日かりすり

という哲学を残されていま 「なん種類を行いること

京れ「繊維を見て の状況まで

うると ・は支 対磁ス

極野

りこ何を任 施与べ着マ う者るし手 報的賞

学的責任で病気を直接治 一つはは、学問的・料 CORR.

我でしゃつています。 先生は影響には二つの他 ちの時代には必要なると対 **学んだ精神であり、これか**

「異常であっても病人では「異常であっても病人ではな ないという社会を削ってい

病気であっても病人ではない

聖績の現代的至義

興夫。人

[主候]福島民報社。一般財団法人浅川町吉田富三類彰会 【共催】浅川町、福島県立医科大学、長崎大学